

# 資料編

## 1. 岡上という地名

岡上という地名は、どのようにしてつけられたのでしょうか。

東光院とうこういんには、次のような伝説があります。

「奈良時代、行基ぎょうきというお坊さんが、この地にやってきた時のことです。

行基は、ちょうど夜に、この辺りを通っていました。すると、東の丘の上から、金色の光を発しているのが見えました。不思議に思って、行基は丘の上に登っていくと、丘の頂上かんのんぞうのあたりに、金色にかがやく観音像を見つけました。観音像は、たくさんの宝や珍しい物を大地に降らせ、貧しい人々を救う力があると伝えられていました。行基は、そこに小さなお堂をたてて、その観音像をおまつりしました。」それが、東光院の始まりとの事です。その事から、この地を『岡上おかのぼり』というようになりました。

奈良時代から岡上という地名があったとの事です  
が、その事を裏付ける証拠があります。

それは、岡上丸山遺跡から、「岡上」と書かれた平安時代のものと見られる土器片が見つかったことです。

また、「続日本記」という古い本には、「716年に  
駿河するが（今の静岡県）甲斐かい（今の山梨県）相模さがみ（今の  
神奈川県）上総かずさ、下総しもふさ（今の千葉県）常陸ひたち（今の茨  
城県）、下野しもつけ（今の栃木県）7カ国の高麗人こうらいじん（朝鮮  
半島から大陸の技術や知識を持って渡ってきた外国

人）を、武蔵国（今の東京都・埼玉県）に移し、高麗郡を置いた。」という事が書かれ、その高麗人の系図の中に、丘登氏、岡登氏、岡上氏の名前が見られます。この事から、朝鮮半島から海を渡ってきた人たちが岡上に住みつき、奈良時代には、岡上氏（おかのぼりし）を名乗っていた事がわかります。岡上（岡登・丘登）を名乗ったのは、それ以前に、岡上おかのぼりという地名がすでにあったと想像できます。

もし、東光院に伝わる伝説が事実であれば、岡上という地名は、「岡を登ってくる所」という意味だったようです。岡上を「おかがみ」と読むようになったのは、いつごろか、定かではありませんが、江戸時代の文書に「岡登」と記してある文書があるので、「おかがみ」の読み方が定着したのは、明治時代に入ってからだと推測されます。



「岡上」と書かれた土器片  
（平安時代）

## 2. 岡上が飛び地になったわけ

なぜ、岡上は飛び地になったのでしょうか。

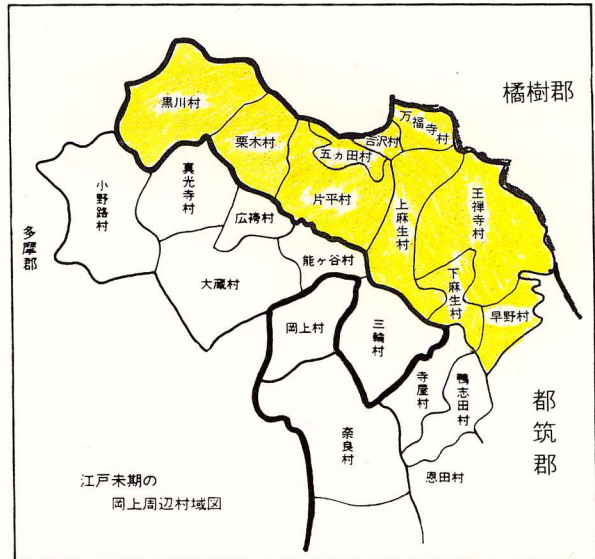
江戸末期、岡上周辺は、右の図のように分かれていました。岡上村は、多摩郡（多磨郡）と都筑郡との境にあって、都筑郡に属していました。養蚕がさかんだった当時、とれた繭や絹糸を町田の市に出していたこともあって、多摩郡との交流が深かったようです。幕府が治安維持のために作った「おのじむらよせばくみあい小野路村寄場組合」には、この辺の全部の村が参加しています。

明治2年の廃藩置県で、現在の八王子市、町田市など23区以外は、神奈川県となりました。現在のように東京都になったのは、明治26年のことです。

明治22年市制町村制の施行の時、都筑郡の岡上を除く10カ村（黄色の部分）は柿生村になりました。能ヶ谷、三輪、大蔵、真光寺、小野寺の各村も、鶴川村（鶴見川に由来するそうです。）となりました。岡上は1村だけ残された形となりましたが2つの村に属さず独自の形をとっていました。大正2年から村の事務のすべてを柿生村と合同で行い、「柿生村他一カ村事務組合」と呼ぶようになりました。野菜など農産物を東京の市場に出荷する時に、柿生村と合同でやった方が便利だったからです。当時は一日かけて、馬車や荷車で、東京の市場に野菜などを出荷していたそうです。

昭和2年、小田急線が開通するようになって農産物を鉄道で運べるようになり、柿生村との結びつきが一層強くなってきました。

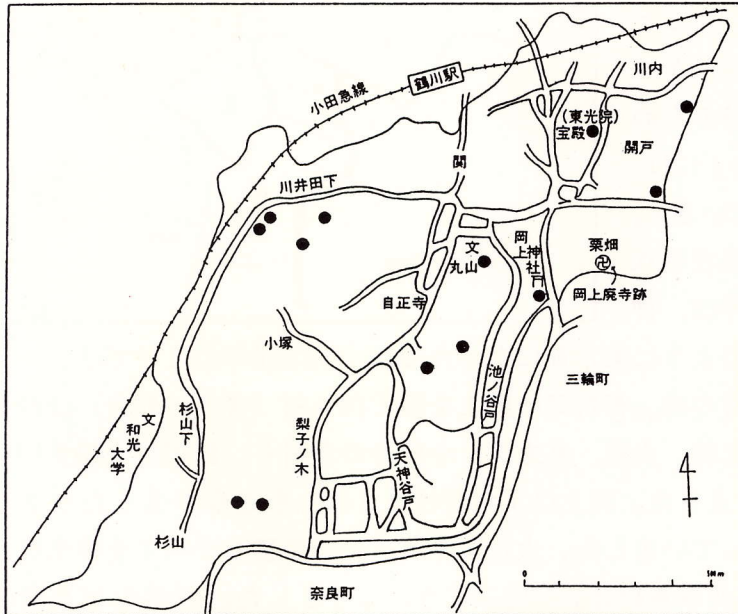
昭和13年12月、奈良や寺屋、鴨志田、恩田の各村（このころは田奈村、中里村になっていました。）が、横浜市に合併することになりました。一方、柿生村は、川崎市との合併を望んでいました。岡上村は、どっちにつくか決めかねて、態度を保留しました。話し合いを重ねた結果、岡上村は、柿生村とともに、川崎市への合併を決め、請願書を川崎市に提出しました。川崎市は、これを受け入れ、市議会でも決議し、昭和14年4月、川崎市への編入が、決まりました。三輪村が、東京都であったため、結果的に、川崎市が飛び地となったわけです。行政区の変化には、養蚕中心であった時代から、野菜等の生産を中心とする近郊農業への変換が、大きく反映されています。



### 3. 岡上の歴史

いつごろから、岡上に人が生活するようになったのでしょうか。

1987年（昭和62年）、稲城市坂浜から、5万4千年前のものと思われる石器が出土しました。黒川の黒川東遺跡からも2万年前の石器が見つっています。このことから、5万年前には、人々は、多摩丘陵に住みついていたことが、わかります。今から1万2千年前以前の時代のことを旧石器時代といいます。その後、多摩丘陵に住みつ



岡上の遺跡地図（●印は遺跡、⊗は寺院跡）

いた人々は、粘土で形を作って焼き、皿や器（土器）、人形（土偶）などを作ります。今から1万2千年前から2千年前までの1万年に及ぶ長い時代のことを、縄文時代といいます。このころは、狩りをしたり木の実をとる生活をしていました。洪水から守るため丘の上に住居を構えていました。岡上丸山遺跡からは今から3700年前の住居跡が見つっています。19

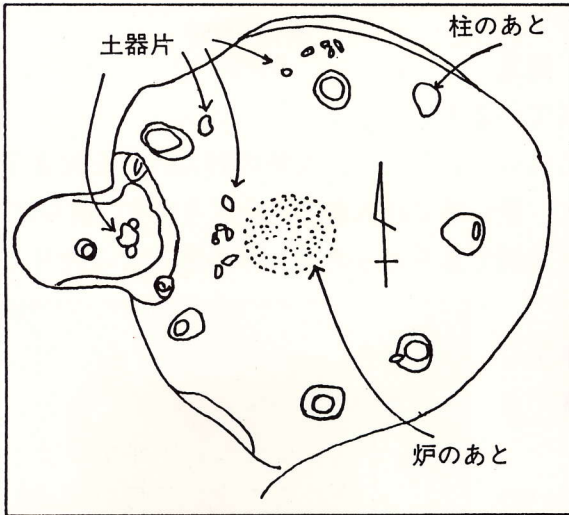
90年、上麻生環境センター建設の時、地下5メートル程掘り下げたところから、直径1メートル以上あるコナラやケヤキなどの大木がたくさん出てきました。今から2千5百年前この辺りは大きな川の川底で、激流で多くの大木が流され、この地に埋没したと考えられます。

稲作りが伝わると、人々は水を求めて川沿いの平地に移住するようになります。土器も高温で焼かれ、じょうぶなものとなります。この土器が作られた時代を弥生時代といいます。柿生や黒川や多摩ニュータウンには、弥生時代の遺跡は見つかりません。岡上の近くでは、町田市三輪町すぎやまの椋山神社北遺跡から、昭和54年に弥生時代後半の遺跡が見つかりましたが、町田市でも、ここ以外には見つかりません。

川崎市教育委員会の調査によると、岡上地区内では、遺跡と見られる場所が、13か所あるとされています。（上図、昭和62年）そのうち、いくつかは宅地造成で破壊されていますが、岡上丸山遺跡を除いては、まだ、発掘・調査されていません。

岡上丸山遺跡の遺物から、縄文時代のどんな生活が想像できるでしょうか？

4千年前、縄文時代の人々が住んだ家の跡が20軒ほど、倉庫の跡5軒、土こう墓とよばれる墓穴4基、食べ物を貯蔵するための穴2基、食べ物を蒸し焼きにした跡3基、土こうと呼ばれる獲物を落とすための落とし穴10基以上、屋外で火を燃やしたあと3つなどが、発見されています。住居跡が台地のふちに沿って分布していて、全体として馬のひづめのような形に配置されています。1つ1つの住居跡は、図のように柱が



7本たてられ、中央に炉があります。そして、使っていた土器のわれたもの、薬つぼ、土偶、石皿、石斧などが、いっしょに出てきました。



小形深鉢  
(食べものを煮る器)



土偶

(人物や動物をかたどった土製品) をして、病気をなおすためや、狩りの時、獲物がたくさんとれるように、いのった時に使われたようです。



かめ  
(ものを煮る器)

土器などといっしょに、多くの石器も見つかっています。引矢の先につけたと思われる石鏃、土堀りや木の伐採に使われたと考えられる打製石斧や磨製石斧、魚をとる

ための網のおもりに使われた石錘、木の実を粉にしたり果汁にししたりするのに使用した石皿と磨石、おいのりに使ったと思われる石の棒、首



石鍾 (魚を捕える網のおもり)

石 鍾

(魚を捕える網のおもり)

かざりなどの装飾品の1つと考えられる有孔垂飾などが、発見されています。



有舌尖頭器 (やり)

これらの遺物から、当時の村の人口を想像すると、多い時で40人程だったようです。彼らは、狩りで獲物をとったり、鶴見川に行って、魚網で魚をとったり、木の実をとったりして生活していたと想像できます。

酒などを入れる注口土器が見つかった事から果実を貯えて酒にして飲んでいた事が想像できます。

土偶や石棒を使って、おまじないや、おいのりをしていた事もわかります。

今から2000年前、何かの理由で、人々はこの地から去っていきます。米作りがはじまり、水を得やすい鶴見川の平地の方へ住居を移したのかもしれない。



注口土器 (酒を入れるつぼ)

岡上丸山遺跡の遺物から、古墳時代の人々のどんな生活が、想像できるでしょうか。

縄文人たちが、この地を捨てて700年後、今から1300年前に、人々は戻ってきました。日本各地に大きな古墳が作られた古墳時代のことです。

住居跡は、約95軒見つかっています。この時期になると住居の形も長方形になってきます。今日の住居に近づいてくるわけです。

この時期に見つかった物は、次のような物です。

1. 土器 (この時期の土器は、1100度以上の高熱で焼かれ、ねずみ色のものとなっています。今日でいうお茶わんの原型ともいえる須恵器や土師器の破片も、多く見つかった。

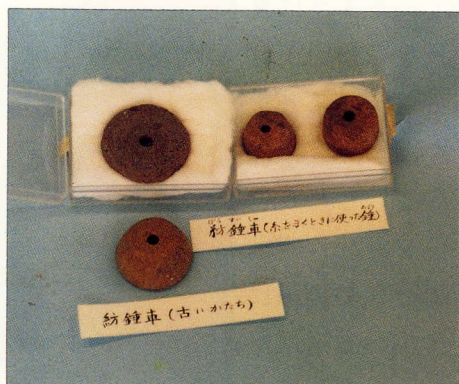
ています。)



須恵器  
(食器・祭器として使用)



つぼ  
(ものを貯えうつわ)



防鍾車  
(糸によりをかけるとき使った鍾)

2. 防鍾車 (糸をつむぐ時に、糸に通したものの。)
3. 鉄製の刀 (権力を持った人が持っていたと考えられます。)
4. 土 鍾 (土のおもりで、魚をとる時に網につけたと考えられます。)
5. 古銭類 (奈良・平安時代の古銭。)
6. 砥石などの石製品
7. 弓矢の先につけた鉄鏃や、工具として使用された刀子などの鉄製品。

このことから、次のような事が想像できます。

1. 山野に自生するカラムシヤクズ、フジ、あるいは麻から糸をつむぎ、布を織っていたこと。
2. 鉄製の農具を使って、農耕を行ない、砥石などで、刃をとぐ技術があった事。
3. 土器の種類が増え、現在の生活に近づいてきた事。
4. 村の長がいたこと。

奈良・平安時代の遺跡としては、阿部の原の岡上廃寺跡があります。道路をはさんで、岡上神社の反対側の細い道を入れていくと急に畑が広がっている所があります。その地から、「荘」や「国」などの



岡上廃寺跡 (阿部の原)

文字を記した文字瓦や、布目の模様の布目瓦や「岡」と墨で書かれたさかずきなどが発見されています。まだ詳しい調査の報告はされていませんが、平安時代の住居跡が1基見つかっています。丸山遺跡と何らかの関係があるものと思われます。

また、川井田下や杉山下にも横穴古墳が見つかっています。7世紀から8世紀のはじめにかけての村の首長や有力者の墓と考えられます。

東光院に伝わる兜跋毘沙門天像は、いつごろ、何の目的で作られたのでしょうか。

奈良時代の創建と伝えられる東光院には、平安時代末期の作と伝えられる兜跋毘沙門天像があります。高さ1メートル21センチメートル、右手に宝棒、左手に宝塔を持ち、足を大きく開き、天女の上に立っています。鎧を身にまとい、髪を結い太い眉、開いた口は、何かに怒っているように見えます。言い伝えによると、近くの百姓が、川底から拾い上げて枯木かれきと思い米つき台にして使っていたが、ある日、ほこりを払ってみると仏像だったので、東光院に納めたということです。

素朴な作風から見て、この岡上で作られたものといわれています。

平安時代末期、政治の中心は天皇や、天皇の親せきの関係にある貴族のいる京都にありました。地方では、貴族の政治に不満を持つ領主たちが、武士団を作って反乱をおこしたりしていました。関東では、平将門の乱、源朝頼の旗上げなど争い事の絶えない時代でした。そうした時代に、京都の貴族たちが、争い事をおこす敵を追い払う目的で作らせた仏像が兜跋毘沙門天像でした。関東以北では、鎌倉市の白山神社と、岩手県の東和町、北海道の江差など数体だけです。

大化の改新で、豪族の所有していた土地や農民は、公おおやけのものとなりました。(公地公民)しかし、平安時代となると公地公民制は崩れ、貴族や豪族は私有地しやうえん(荘園)を持つようになりました。また他の私有地をも支配しようという争いもおこっていました。争いがひんぱんにおこると豪族たちは、支配下の農民を武装させるようになってきました。それらが集合して力を増やし大きな集団(武士団)を作るようになりました。

この辺では、町田市から柿生にかけて、小山田ありしげ有重の勢力下にありました。その子稲毛いなげしげなり重成は、今の川崎市の一帯に勢力を持っていました。京都からやってきた仏師が岡上の地に来て、争いの絶えない状況に心を痛め、仏像を作ったと考えても、決して不自然な事では、ありません。1192年、源頼朝が、鎌倉に幕府を開くことにより政治の中心が、京都から関東に移ることになります。



兜跋毘沙門天像

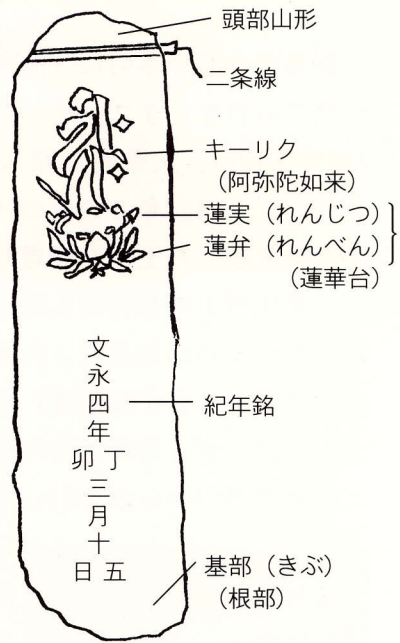
川崎最古の板碑は、どのような目的で作られたのでしょうか。

「岡上」のバス停前の梶千秋さん宅の土蔵には、川崎市内で一番古く、一番大きな板碑（いたび・ばんび・いたぼとけ）が、保存されています。

高さ140センチメートルの緑色の板碑には、文永4年（1267年）の年号が刻まれています。（川崎最古と伝えられている高津区妙法寺の板碑は建長7年、1255年ですが、発見場所は川崎市内ではありません。）

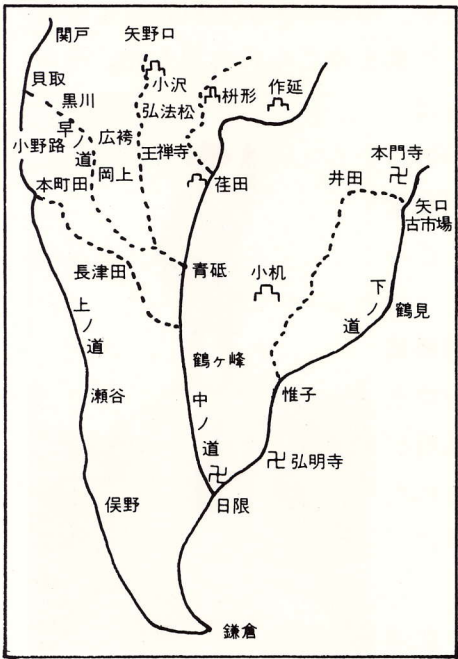
板碑とは、なくなった武士をとむらうために作られた石碑で、今日の墓石のようなものです。緑色の石は、秩父の長瀬（荒川上流）から運ばれたものと考えられます。

昭和25年に、梶さん宅横の用水路を改修している時に、水をせきとめるために使っていた石を掘り出してみたところ、それがこの板碑だったという事です。以前は、土蔵の横に建てられていましたが、今は、土蔵の中に入れられています。



板碑各部位の名称

こんな立派な碑を建ててもらった武士はどんな人物だったのでしょうか。誰かはわかりませんが、少なくとも岡上周辺に有力な武士がいたことは確かです。この当時のことを書いた本によると、都筑三郎、寺尾太郎、三輪寺三郎、奈良五郎といった武士が活躍したとされています。



鎌倉道

板碑がある事から、岡上にも鎌倉道（鎌倉街道）が通っていた事が考えられます。鎌倉道とは、関東の武士が「いざ鎌倉」（鎌倉幕府に何かあった時）という時につける道の事です。この道は、最短きよりを通ろうとしたため山道を通ることが多く、道幅も狭いのが特徴です。道筋も一本でなく、上の道、中の道、下の道、その三本の道をつなぐ道などがありました。岡上の近くでは、小野路から町田へ抜ける道があったのですが、黒川から岡上を通る道は鎌倉への近道となるので、早道・はやの道と呼ばれています。

板碑がある事から、岡上にも鎌倉道（鎌倉街道）が通っていた事が考えられます。鎌倉道とは、関東の武士が「いざ鎌倉」（鎌倉幕府に何かあった時）という時につける道の事です。この道は、最短きよりを通ろうとしたため山道を通ることが多く、道幅も狭いのが特徴です。道筋も一本でなく、上の道、中の道、下の道、その三本の道をつなぐ道などがありました。岡上の近くでは、小野路から町田へ抜ける道があったのですが、黒川から岡上を通る道は鎌倉への近道となるので、早道・はやの道と呼ばれています。



群馬県蕨塚にある岡登用水を作った代官岡登景能（おかのぼり かげよし）は岡上とどんな関係があるでしょう。

群馬県の蕨塚本町に「岡登神社」があります。その境内に大きな「岡登景能公の碑」が建てられています。その石碑によると、「岡登景能は、父景親、祖父景純、のあとをついて、1654年この地の代官（江戸幕府が直接支配した土地を管理した役人）となり、足尾銅山の奉行にも任命された。当時、銅貨を作るのに必要だった銅を江戸へ運ぶための道（あかがね街道）や宿場の整備に力を入れ、何も作物が作れなかったこの地に、渡良瀬川から水を引いて、水田を作る



岡登神社（群馬県蕨塚本町）



今日の岡登用水

ことを計画した。岩盤をくり抜いたり、水路を大きく2つに分ける等、難工事の結果、1669年に完成した。この水路を岡登用水と言い、今日まで、多くの田畑を潤している。また、人々の心の拠り所を作ろうと、5つの神社と、3つの寺を創建した。しかし、1687年、渡良瀬川下流の村から、川の水位が下がって困るとか、用水の水がもれたなどの苦情が出たため、幕府より、切腹を命じられ自刃した。その後、1752年周辺の村人たちは、岡登景能の功績をしのぶために、この地に岡登霊社を作り岡登景能をまつることとした。」とあります。

残された系図によると、岡登家のおこりは、武蔵国都筑郡岡上村にあるとあります。つまり、戦国時代、この岡上の地に住んでいた岡上景行が北条氏政に仕え、江戸幕府が開かれるとともに、江戸幕府の役人として取り立てられたのです。景行の子が景純で、景純の孫が景能という事になります。

このように、今から300年前、この岡上の地から、立派な仕事をした人物が出たという事は誇らしい事です。



岡登景能の碑（群馬県岩宿）

## 江戸時代の岡上は、どうだったのでしょうか。

室町時代の終わりごろ、岡上は小田原城を本拠にする北条氏が支配していました。この当時の古い記録によると、小机こづくえに住んでいた武士である福島四郎左衛門が領主として、この地を治めていました。

天正18年（1590年）豊臣秀吉が北条氏を滅ぼしたあと、徳川家康が関東地方を支配したので、天領（江戸幕府の直接の領地）になったり旗本の領地になったりしました。

### 岡上の領主の変せん表

1591年 （天正19年）	～	旗本、水野近信の領地となる。 1561年の10月9日～14日まで検地が行なわれる。
1689年 （元禄2年）	～	水野近久が病気となり領地を幕府に召し上げられ、天領（江戸幕府の直接の領地）となった。
1698年 （元禄11年）～ 幕末まで	～	旗本、大久保忠行の領地となる。江戸末期の領主は、大久保鐵四郎。

現在の岡上の駐在所の前の所に、幕府や奉行所からの通知を掲示する目的で作られた高札場こうさつばがありました。現在は、生田の日本民家園に移されています。

この高札場から、岡上の人々は、五人組や切支丹きりしたん（キリスト教のこど）、衣食住のきまり、江戸幕府からの様々なきまりを知りました。周辺の村とのもめごとについての奉行所の裁定についても、この高札場を通して知らされました。



民家園にある高札場

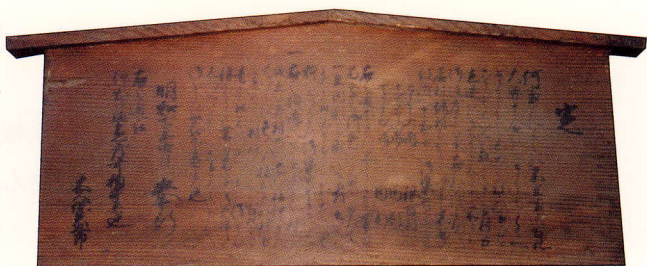


慶応4年の太政官からの立て札

村人達を悩ませたのは、水の問題でした。鶴見川に堰せきを設け、水田に水を引き入れていましたが、元禄16年の大洪水で水田が水びたしになってしまいました。以降、天明・嘉永と、2度、大洪水があったといえます。雨が降らなくて、稲が育たない年もあったそうです。

周囲の山林は、馬の飼料・屋根をふく材料や、燃料に使う薪の供給源でした。

岡上小学校の裏の丸山もそうでしたが、そうした山林のこいりあいちを入会地といって、村人たちの共有地となっていました。元禄14年（1701年）には隣の奈良村と、入会地をめぐって争いがおこったりもしました。



梶家に残る代官からの通知（高札）

### 江戸時代の人たちは、どんな信仰をしていたのでしょうか。

岡上の人たちは、東光院を自分達の寺として大切にしていました。皮膚病ひふびょうをなおすためにかさもりいなり瘡守稻荷を作ったり、蚕かいこがよく育つように蚕影山祠堂こかげさんしどうを作ったりしています。蚕影山祠堂は、現在、日本民家園に移してあります。蚕影山祠堂は、茨城県の筑波市の蚕影神社から神様を移したものです。お堂を建てた時に、養蚕についての民話も伝えられました。民話の本で、どんな伝説なのか、調べてみましょう。そのほか、六地藏や、仁王門、鐘楼、弘法大師供養塔などは、江戸時代に建てられたものです。

神社は、宮野家の氏神だった剣神社、梶家の氏神だった諏訪神社、山田家の氏神だった山王神社、海老沢家の氏神だった宝殿稻荷社、横田家の氏神だった開戸稻荷社の5つの社がありました。明治42年、5つの神社を、諏訪神社の地に合併して、1つにまとめ、岡上神社となって今日に至っています。境内には、水の神をまつた水神塔（嘉永3年）、生産の神をまつた金勢大明神（嘉永4年）、土地の神をまつたけんろう堅牢地神碑（安政2年）などがあって、当時の人々の信仰生活を今日に伝えています。

谷戸田の奥へ行くと、山伏谷戸と呼ばれる地区があって、高松三春さんのお宅の庭には小さな不動堂があり、護摩札を刷る版木や、ほら貝、山伏として認める補任状ふにんじょうや古いお経の本が、今でも残っています。また、高松道男さんのお宅にも、「持宝院じほういん」と書いた板（文政12年）が残っていて、寺院として機能していたことがわかります。高松三春さんの話によると、元禄年間、京都から信仰を広めるために岡上にやってきたという事です。その時に持ってきたという系シバの木を、高松三春さんは大切に育てています。岡上に定住してから、修験道しゆけんどうを広めるために、家内安全や、五穀豊穡ごこくほうじょう、孤

退治のいのりをしたり、護摩札を印刷して配ったりしたそうです。日照りの時は雨乞いをしたり、猪や兎を法螺貝でおどかして農作物の被害を防いだりしたこともあったそうです。山伏といっても、山野にこもって心身をきたえる修行僧ではなく、住民サービス業のようなものだったようです。

江戸時代には講といって、回り持ちで、集まりを持ったり、念仏を唱えたり、遠くの神社にお参りに行ったりすることもさかんに行なわれたようです。

地神講は、春秋の彼岸の日に当番の家に集まって飲み食いをして、作物がよくできるようにいのるものです。

念仏講は、毎月行なわれるもの（月並念仏）と、葬式や法事の時の念仏とがあって、当番の家の仏壇の前やお地藏様の前で、念仏を唱えたり、御詠歌といって念仏の歌をうたったりするものです。この習慣は、今日まで続いています。

榛名講は、群馬県の榛名山に、村代表の者がお参りをするもので、毎年正月の集まり全員で、こよりでくじを作り、5人の当番の者を決めるものです。この講は、つい最近まで続いていました。

大山講というのもあって、日でりの時には、雨乞いのために、大山阿夫利神社に出かけていったということです。

その他に、風が吹かないようにいのりをする寅日待や、蚕がじょうぶに育つように、いのりをする蚕日待などが、講の形で行なわれていたそうです。

岡上地区内に3基ある馬頭観音は、当時の唯一の動力であった馬をおまつりしたもので、当時の人々の馬への思いや、信仰心を今日に伝えています。



高松さん宅に残された生活道具



多摩植物園前の馬頭観音

学校ができる前、岡上の人たちは、どうやって勉強していたのでしょうか。

明治5年（1872年）、政府の命令で、日本ではじめて小学校が作られました。

それまで、子どもたちは寺小屋で、読み・書き・そろばんをなっていました。先生は、医者や浪人やお坊さんでした。岡上の子どもたちは、王禅寺や小野路の方まで通って、勉強していました。

岡上の子どもたちが通っていた寺小屋や塾は次の通りです。

①梶六郎右衛門の塾（岡上村）

1806年に、梶六郎右衛門がなくなるまで続けました。いつからかは不明です。遠く王禅寺村や広袴村からも生徒が集まりました。

②神蔵嘉市郎の塾（神蔵塾ともいう。能ヶ谷村）

神蔵嘉市郎は能ヶ谷の名主。1845年（弘化2年）に寺小屋を開業しました。岡上から多くの子供たちが通ったそうです。明治6年には研精学校の教師にもなりました。

③修広寺の夏菟山共同塾（片平村）

修広寺のおしょうさんが先生をつとめました。明治5年以降も小学校を終えた生徒たちが集まり、明治35年まで続けました。

④南嶺堂（上麻生村）

1853年（嘉永6年）小島源左衛門が開いた塾です。生徒の数は110人に達し、この辺では、大きな塾でした。

⑤青戸塾（王禅寺村）

1864年（元治元年）青戸桂之助が、南嶺堂のあとをつぐ形ではじめた塾です。明治5年には、男35人、女15人が集まっていたという記録があります。

⑥小野郷学校（小野路村）

明治4年、新しい学校を作ろうという神奈川県の指示で作られた学校です。小野路村の万松寺で開かれ、小野路村周辺9カ村から生徒が集まりました。岡上からは、当時16才だった宮野藤吉という人が通っていました。明治5年に「学制」が出されたので、短期間のうちに閉校してしまいました。

**岡上は、戦争にどうかかわっていたのでしょうか。**

明治時代から昭和時代にかけて、日本人は大きな戦争を経験してきました。徴兵制がひかれていた当時、岡上の男の人たちも、20才になると、兵隊となって戦場に行かなければならなかったのです。

岡上神社の本殿には、日露戦争（しゅうせい）に出征した人たちが奉納した額があります。その額には、次の名前が書かれています。

梶 浦蔵

梶 啓蔵  
 山上 卯太郎  
 山田 房吉  
 星野 福吉  
 山田 庄太郎  
 海老澤 佐市郎  
 海老澤 新平  
 梶 武助  
 雑沢 加吉



10人の出征した兵士たちが「無事、帰って来れますように」とお願いして奉納したものでしょう。

太平洋戦争の時は、この岡上にもB29の編隊が、焼夷弾しょういだんを落としていきました。昭和19年5月20日、宮野光夫さん宅の土蔵に焼夷弾が落ちましたが、近所の人たちが、消しとめ、大事に至らなかったとの事です。

### 小田急線が開通してから、人々の生活は、どう変わったのでしょうか。

岡上に大きな変化があったのは、昭和2年の小田急線の開通以降のことです。それまで、東京に行くには、荷車をひいて1日がかかりで往復していましたが、小田急線が開通してからは、40分くらいで新宿まで行けるようになりました。

当時の小田急線は、貨物輸送にも使われ、岡上でとれた柿や野菜を貨車で、東京の市場に、その日の早朝に運ぶことができるようになりました。

昭和5年には、現在の町田街道の道幅も広がり、自動車も通行できるようになった事から、馬車、荷車中心の輸送から、鉄道や自動車中心の輸送に変わってきました。

電車に乗って、東京など遠くに働きに行く人も出てくるようになりました。

そのような変化にともなって、養蚕業はしだいに減って、現金収入が得られる野菜や果樹の生産量が増えてきました。

### 岡上に急に入口がふえはじめたのは、いつごろでしょう。

江戸末期から、70戸前後、400人前後を保っていた人口も、昭和30年代後半から、急に増えはじめました。日本全体の景気がよくなり、人々の生活も豊かになりはじめ、多くの人たちが郊外に新しい住宅を建て、移り住むようになりました。

岡上の場合、小田急線沿いの急傾斜地に、多くの住宅ができました。昭和41年に和光大学もでき、学生たちも住むようになりました。

平成2年ごろからは増え方はゆるやかになってきましたが、人口・世帯数とも増えつづけています。

どうして、営農団地が作られたのでしょうか。

岡上は平地が少なく、水利が悪く、稲作には向かない

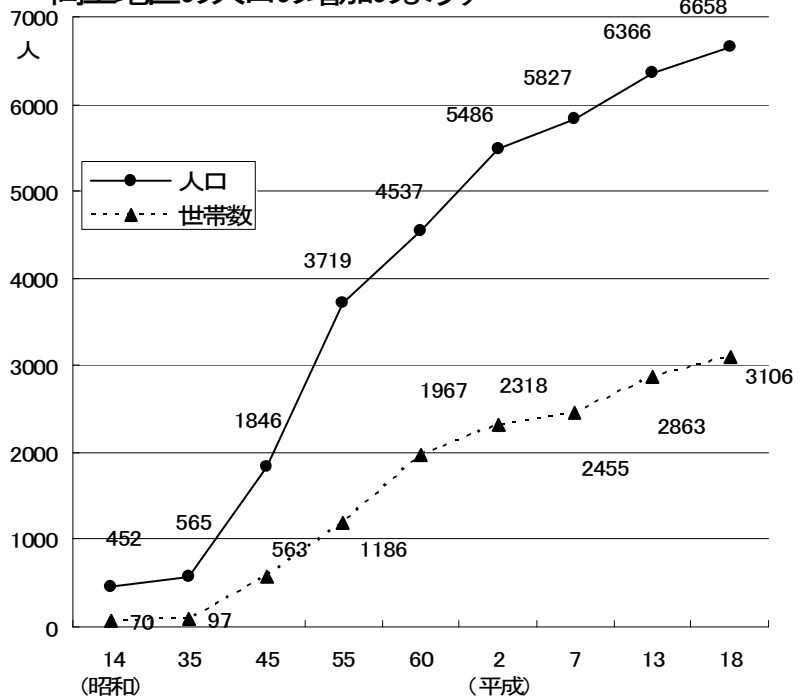
ため、大平洋戦争前は、柿や野菜や<sup>まひ</sup>菌を主に生産していました。戦中から、食量増産で、桑畑が、麦畑やサツマイモ畑に変えられました。

戦後は、果樹・野菜や養鶏が主流となってきました。しかし、昭和40年ごろ、果樹・野菜では経営が成り立たなくなってきました。そこで、今まで手をつけられていない広大な山林を農地に作り変え、機械を取り入れた大規模な農業経営をしようという計画が、昭和45年に一部の有志から提案されました。

この計画で、県や国にも補助を申請することになり、県から20%、国から55%川崎市から25%の補助を得る形で、昭和47年に決定されました。

昭和48年から造成工事が始まりました。昭和48年度の造成費は、6480万円でした。この年から柿の穂木を岐阜県に1万3千本育成委託し、昭和49年12月には、農地造成が完成した所から仮植えをはじめました。また、さつまいも畑1ヘクタールと落花生畑30アールの観光農園をはじめました。昭和51年には、1棟835平方メートルの温室8棟が建設され、トマト、キュウリなどの栽培がはじまりました。その後、農道を含めて全て完成したのは、12年後の昭和59年（1984年）4月のことです。昭和60年9月から週2回野菜の直売会をはじめています。山田三好さんは、5年間、福島・山形・秋田の農業試験場や農家に通ってりんご栽培を学び昭和61年に、りんごが収穫できるようになっています。岡上は、アイデアと努力で、新しい近郊農業の在り方を求めて、着実に歩みつづけています。

岡上地区の人口の増加のようす



## 年表

西 暦	年 号	で き ご と
前 2000 頃	縄 文 中 期	岡上小学校のある地(丸山)に集落ができる。
350頃	古 墳 時 代	再び、丸山に人々が往みはじめる。
650頃		川井田に横穴古墳が、作られる。
750	天 平 勝 宝 2	このころ、安部原に、私寺が造られたという。
755	天 平 勝 宝 7 (平安時代末期)	都築郡より服部於田(はとりべのうえだ)ら防人に徴発される。 兜祓毘沙門天像(とばつびしゃもんでんぞう)が作られる。
1 2 6 7	文 永 4	岡上に、ある武士を供養するために板碑がたつ。
1 3 3 7	延 元 2	東光院開山、長海上人没す。(東光院古文言)
1 3 7 0	建 徳 1	王禅寺の等海上人、寺院再建のため東山、禅寺丸神を発見 村人に栽培を奨励したという。
1 5 9 1	天 正 19	10 月9日、検地を受ける。(検地人伊奈忠次)以降旗本水野 氏の知行地となる。
1 6 4 8	慶 安 1	このころ、岡上村が多摩郡より都築郡に繰り入れられる。
1 6 8 9	元 禄 2	本村橋を鶴見川に架設する。この年岡上村が天領となる。
1 6 9 0	元 禄 3	風水害にあう。(田の損失は 36 パーセント)
1 6 9 8	元 禄 11	旗本・大久保氏の知行地となる。
1 7 0 1	元 禄 14	岡上村と奈良村との境界で、草刈り場をめぐり争いが起こる。
1 7 0 3	元 禄 16	干ばつにあう。(田の被害は 46 パーセント)
	元 禄 年 間	高松家の先祖、京都より修験道を広めるために岡上に入る。
1 7 7 0	明 和 7	干ばつにあう。強訴・徒党・逃散の防止に密告制を取り上げる 高札が立つ。
1 7 7 1	明 和 8	干ばつにあう。
1 7 8 6	天 明 6	7月 13 日、豪雨により鶴見川氾濫する。 運搬中の水の抜き取りが多く、荷物に付き添い人夫をつけて 輸送する、という記録がある。
1 8 3 2	天 保 3	村役人、芝居興行で奉行所からおしかりを受ける。
1 8 3 9	天 保 10	馬持講中の碑(馬頭観音)が建つ。
1 8 4 9	嘉 永 2	8月、鶴見川氾濫する。
1 8 5 1	嘉 永 4	現岡上神社内の金勢大明神の碑が建つ。
1 8 6 2	文 久 2	東光院第 27 代当主寺院を改修する。
1 8 6 3	文 久 3	蚕影山祠堂ができる。(この頃、養蚕が盛んになる。)



西 暦	年 号	で き ご と
1 8 6 5	元 治 2	女人講中より蚕影山千手洗石が設置される。
1 8 6 8	明 治 1	9月 21 日、神奈川県が成立、多摩郡、都築郡とも神奈川県となる。
1 8 7 2	明 治 5	大区小区割施行。岡上は6大区7小区となる。
1 8 7 3	明 治 6	区、番制に変更される。岡上は、6区7番となる。
1 8 7 8	明 治 1 1	7月 22 日、郡区町村編成法施行。都築郡岡上村となる。
1 8 8 9	明 治 2 2	7月 31 日、市制、町村制施行。各村は統合するが、岡上は   村のまま。
1 8 9 3	明 治 2 6	4月三多摩(同上周辺の村)が東京府に移管される。
1 9 0 9	明 治 4 2	村社劔神社及び無俗社3社を無格社諏訪神社へ合併して岡上神社と改称する。
1 9 1 1	明 治 4 4	孝士高松3兄妹、神奈川県知事より表彰される。(3孝士の碑が建つ。)
1 9 1 3	大 正 2	柿生村と「柿生村外1ヶ村組合」を設立。
1 9 1 6	大 正 5	岡上に梶合名会社を開き、精穀及び販売を始める。
1 9 2 7	昭 和 2	4月1日小田急電鉄開通。鶴川駅開業。
1 9 3 3	昭 和 8	いちご栽培始まる。箱詰めで出荷される。
1 9 3 8	昭 和 1 3	12月 13 日、「柿生村外1ヶ村組合」は川崎市に対して川崎市に合併したい旨陳情する。
1 9 3 9	昭 和 1 4	4月1日、岡上村柿生村、川崎市へ編入、合併される。
1 9 4 6	昭 和 2 1	岡上に納豆工場ができる。
1 9 5 2	昭 和 2 7	岡上にバッテリー式の養鶏が始まる。
1 9 6 0	昭 和 3 5	西町会に住宅が建ち始める。
1 9 6 3	昭 和 3 8	岡上でビニールハウスによる野菜促成栽培が始まる。
1 9 6 6	昭 和 4 1	和光大学開設される。
1 9 7 2	昭 和 4 7	川崎市政令指定都市に移行。5区誕生。岡上は多摩区となる
1 9 7 3	昭 和 4 8	12月岡上営農団地が認可となる。翌年1月工事着工。
1 9 7 8	昭 和 5 3	岡上文化センター(現麻生市民館岡上分館)開設される。
1 9 8 2	昭 和 5 7	7月1日、川崎市7区割施行。同上は麻生となる。
1 9 8 7	昭 和 6 2	川崎市立岡上小学校開校。
1 9 9 2	平 成 4	こども文化センター、老人いこいの家ができる。
1 9 9 6	平 成 8	川崎市立岡上小学校が創立 10 周年を迎える。

西 暦	年 号	で き ご と
2000	平 成 1 2	岡上小学校敷地内に市の防災倉庫が2基設置され、また、正門内側に地下貯水による臨時給水施設(地下貯水槽)が完成する。
2001	平 成 1 3	岡上小学校へ禅寺丸柿が「柿生禅寺丸柿保存会」より寄贈され植樹される。
2006	平 成 1 8	和光大学創立四十周年記念が開催される。 川崎市立岡上小学校が創立20周年を迎える



校庭に植えられている禅寺丸柿の木

## ご協力いただいた方々(順不同・敬称略)

梶 智恵子                      梶 俊夫                      高松 三春                      海老沢 勲

宮野 憲明                      山田 秀樹                      梶 康夫

岡上こども文化センター                      株式会社かじのや

笠懸野岩宿文化資料館(群馬県)                      蕨塚本町歴史民俗資料館(群馬県)

蕨塚本町岡登神社(群馬県)                      国瑞寺(群馬県)

## 参考にした本・資料

社会科副読本おかがみ(1990)                      開校記念誌おかがみ  
開校記念文集おかがみ                      神奈川県史                      川崎市史  
岡上の民俗(川崎市教育員会)                      郷土史(大正元年、岡上小學校)  
川崎市統計書I(川崎市)                      川崎の町名(日本地名研究所)  
かながわの平安伝(清水真澄)                      新編武蔵風土紀稿(1830年)  
柿生郷土史年表                      全国遺跡地図・東日本編  
よみがえる岡上の歴史(川崎市教育委員会)  
ひろば-グラフかわさき(1978年、21号川崎市)  
歩け歩こう麻生の里(川崎市麻生区老人クラブ連合会伝承委員会)  
川崎市岡上営農団地概要書(岡上営農団地管理組合、川崎市)  
岡上丸山遺跡発掘調査報告書(川崎市教育員会)  
ふるさとは語る-柿生岡上の歩み(柿生郷土史刊行会)  
柿生の教育の歩み(柿生の教育のあゆみ刊行会)  
小野路、野津田をあるく(小島資料館)  
代官岡上影能(萩原進、丑木幸男)  
郷土岡上(2006年 岡上郷土誌会)  
インターネット 川崎市 町丁別世帯数人口 麻生区

みなさんが住んでいる岡上の地域は1万年も前から人々が生活していました。現在の岡上小学校が建っているところからもたくさんの土器などが出土されたとのこと。このことから、暮らしやすい土地だったのだと想像できます。それから、明治時代にも岡上小学校があったのです。その後学校の名前は変わり、さまざまな事情もあり、昭和時代に入ってまもなく廃校になったのです。しかし、この岡上の地に学校をつくりたいという地域の方々の願いがかない、今みなさんが学んでいる岡上小学校ができたのです。

岡上小学校ができてから20年目になります。このあいだに副読本「おかがみ」は2回作られました。副読本を作るために岡上のことを調べてみると、10年前の内容とくらべて変わっているところがたくさんあることに気づきました。

今回作った副読本は、資料集という形でパソコンに入っています。学校からも自宅からもパソコン画面でいつでも見ることができるようになっていきます。くりかえし見てお互いに意見や感想を出し合いながら、岡上のことにくわしくなってほしいと思います。

最後になりましたが、この本を作るにあたっては、PTAの皆さんをはじめ、地域の方々から多大なご協力をいただきました。心よりお礼申し上げます。

この本を作るにあたっては、PTAの皆さんをはじめ、地域の方々に多大なご協力をいただきました。最後になりましたが、心よりお礼申し上げます。



---

創立 20 周年記念 地域学習資料集

## おかがみ

発行日 2006年11月11日

発行者 川崎市立岡上小学校

---